

機関番号：33402

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21800068

研究課題名（和文）非体育系大学における学生アスリートの実態と学習支援体制に関する研究

研究課題名（英文） A study on academic support for student athletes of universities which do not have physical education curriculum as its major

研究代表者

長倉富貴 (NAGAKURA FUKI)

山梨学院大学・経営情報学部・講師

研究者番号：40516647

研究成果の概要（和文）：本研究は、近年増加傾向にある非体育系大学における学生アスリートに対する大学の学習支援体制について調査したものである。調査の結果、我が国においてははまだ学生アスリートを対象とした学習支援を組織化した取り組みはほとんど見られない。しかし、北米などの大学においてはかなり体系化された学習支援システムが確立されておりアスリート学生が学業とスポーツの両立に効果をあげていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to reveal the facts on student athletes at universities which do not have `athletic program` as their curriculum, and on academic support for student athletes. As a result of research, I found that academic support for student athletes at university in Japan is not established at all, although, those in Canada or United States are considerably advanced.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,010,000	303,000	1,313,000
2010年度	940,000	282,000	1,222,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,950,000	585,000	2,535,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：スポーツ科学

キーワード：カレッジスポーツ、学生アスリート、学習支援、大学スポーツ、学生支援

1. 研究開始当初の背景

1990年後半より従来の学校体育の教員を養成することを主な目的とした「体育学部」以外の非体育系学部国内トップレベルのスポーツ競技者が入学する例が増えている。大学によっては「非体育系学部」の入試に「スポーツ推薦枠」を設けたり、大学でのスポーツ活動へ多額の助成を行うなどしてスポーツ競技者を学生として積極的に受け入れて

いる。学生アスリートが競技を行うことに関しての支援は比較的盛んであるが、本来の学生の本分である学習面に関して、大学として適切な支援体制が行われているのか実態を明らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学における学生アスリート学生を対象とした学習支援の実態について

て明らかにし、海外での事例研究や実際のプログラムを検証し、今後の学習支援プログラムの開発、システム整備にむけた方向性の提示をめざすことである。

3. 研究の方法

(1) 大学における学習支援に関しての先行研究を行った。また大学のホームページや入学案内資料などから大学が提供するアスリート学生対象とした学習支援について調査を行った。

(2) 北米における学生アスリートを対象とした大学の支援体制について HP などを中心に調査し、その中から任意に5つの大学を抽出し、アスリート学生を対象とした学習支援についての視察と担当者のインタビュー調査を行った。視察インタビュー調査は以下の大学について行った。①University of British Columbia (ブリティッシュコロンビア州、カナダ)、②University of Central Florida (フロリダ州、アメリカ)、③Temple University (フィラデルフィア、アメリカ)、④Villanova University (ペンシルバニア州、アメリカ)、⑤Penn State University (ペンシルバニア州、アメリカ)

調査内容は主に以下の内容について行った。(i)アスリート学生対象とした学習支援専門部署の運営体制について(スタッフの数、対象アスリート学生の数、チューターの数、提供する学習支援の内容、業務時間等)(ii)参考資料(チューターマニュアル、アスリートハンドブック、各種資料等)(iii)現状の課題

4. 研究成果

(1) わが国において学生アスリートを対象とした大学の学習支援に関する先行研究は皆無であることがわかった。

また、大学ホームページ、入学案内資料などによる調査の結果、体育大学以外の大学において学生アスリート対象とした学習支援を積極的に行っている大学はほとんど見られなかった。

(2) 大学HPなどを調査する中でカナダ、アメリカの学生アスリートを対象とした大学の学習支援はかなり確立されており、

“Academic Support Center for Student Athletes” (Penn State Universityの例)というような学生アスリートのみを対象とする学習支援を中心としたサポート専門部署を大学の中に配置している大学がかなり多いことが明らかになった。また、北米の大学においてはNCAAという全米体育協会がアスリート学生に関する細かい規定を決めており、学習時間や学業成績などについても細かい規定があり、NCAAに加盟する大学はもち

ろん、それ以外の大学においても、NCAAのルールに準ずる学則、または大学の方針が定められていることが明らかになった。週における学習時間とクラブ活動時間は細かくきめられており、特に1年生、編入生、成績不良者にはStudy Hallとよばれる一定時間の学習が義務付けられている。成績不良者にはそのレベルにより奨学金の停止、大会出場停止、クラブ活動停止などの処分がされる。

また、学生アスリート対象の学習アドバイザーが組織する全米組織、National Association of Academic Advisors for Athleticsが1975年から存在し、大学間のアスリート学生対象とした学習支援、各種サポートに関する情報共有や研修制度、資格認定制度、表彰制度などが整備されていることも明らかになった。

現地視察とインタビュー調査では、学生アスリート対象に学習支援を行っている部署の責任者とスタッフにインタビューを行った。主に学生アスリートに対し以下の内容について大学がサポートを実施していることが明らかになった。各種ガイダンスやNCAARule、学習指導、履修相談、自己啓発、生活サポートなど幅広いサポートをおこなっていた。

- ・「Academic Counseling」(履修計画や履修アドバイス)、
- ・「Career Development」(専攻、キャリア形成)、
- ・「Eligibility and Compliance」(適正とコンプライアンス)
- ・「First-Year-Enrichment」(初年度教育)、
- ・「Learning Support」(スタディスキル、テクニック)、
- ・「Mentor Program」(スタディケアやカウンセリング)、
- ・「Sport Psychology」(スポーツ心理カウンセリングサービス)、
- ・「Study Enhancement」(補習授業)、
- ・「Tutor Program」(チューターサービス)、
- ・「Achievement」(成績優秀者の表彰)

スタッフの数は大学によってばらつきがあった。Temple Universityは645名のアスリート学生に対して5人、Villanova Universityは525人に対して3人、UCFは450人に対して17人の専任スタッフが配置されていた。

チューターサービスを開始する時間は朝9時(Temple Univ.)から16時(Villanova Univ.)とばらつきがあったが、いずれの大学も平日は21時-22時と夜まで対応していた。Temple Universityのようにgoogle chatなどの民間のシステムを利用しオンラインチ

ューターシステムを実施し、時間外や遠征先などからでもチュータリングを受けられるサービスを提供しているところもあった。実際このシステムではスマートペンを利用しオンライン上でノートを共有し学生が書いたものにリアルタイムでチューターが赤ペン指導を入れるというような対面指導に近いようなチュータリングも実施していた。

調査した中で最もサービスの充実していた大学ともっとも課題の多い大学について以下に簡単にまとめる。

<University of Central Florida の調査結果>

UCF は北米の大学の中でもアスリート学生の学習支援の成果を顕著に挙げている大学である。アスリート学生の卒業率は80%を超え、クラブの平均 GPA は 3.0 を超えている。また過去 5 年において 950 名のアスリート学生がアカンファレンス USA の優秀学生として表彰されている。NCAA の定める Academic Performance Program (APR) においても毎年高得点のスコアを挙げている。また学生アスリートが卒業後研究職に就く率も高い。今回、視察調査をした大学の中では一番充実した施設とサービスを行っていた。この部署の年間予算はスタッフ人件費をいれて年間 \$ 800,000 あるということだった。7 人のフルタイムと 9 人の非常勤スタッフ (週 20 時間) が勤務している。Study Hall とチュータールームは別々に確保されていた。

学生アスリートに対しては Letter サイズ 69 ページにも及ぶ” Student Athlete Handbook “を配布し、学習面のサポートの他に、NCAA の規定、奨学金について、薬の使用について、大学内スポーツ施設利用の仕方など、生活面、キャリア形成、マナーなど幅広くカバーしている。

チューターマニュアルやレスポンスシートなど各種資料も充実していた。

<Villanova University の調査結果>

一方、24 のクラブと 525 人のアスリート学生を抱えながら Villanova 大学で学生アスリートに学習指導をするスタッフは専任で 3 名のみであった。実際に Study Support のケアをしなくてはならない学生は 100 名程だというのが、学生面談のスケジュール組も苦勞しているということであった。チューター用の部屋やブースは特に用意されてはおらず、オフィスも体育館の一角をしていた。Study Hall はフットボールスタジアムのラウンジを使用しており学習環境として決して充実している

とはいえなかった。

<参考写真>



図 1 Temple Univ. のオフィス

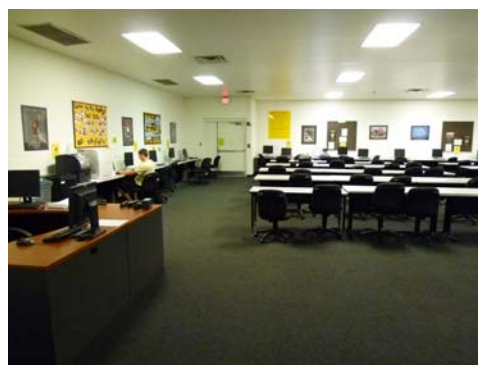


図 2-1 UCF の Study Hal

*手前のデスクで学生 ID をスライドしてチェックイン・アウトの時間を自動的に記録する。



図 2-2 UCF のカウンセリングルーム



図 3-1 UCF のチュータールーム



図 3-2 UFC のチュータールーム



図 4 フットボールスタジアムを利用した Villanova の Study Hall

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 長倉富貴、山梨学院大学『経営情報学論集』、査読無、第 17 号、2011、109-112

[学会発表] (計 1 件)

- ① 長倉富貴、「大学における学生アスリートの学習支援について」、日本スポーツ産業学会第 20 回大会、口頭発表、2011. 7. 16 東京工業大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長倉 富貴 (NAGAKURA FUKI)
山梨学院大学・経営情報学部・講師
研究者番号：40516647

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：